

## ささやき

## 安心できる“場”

作業療法士 嶋川 昌典

作業療法士として勤務するようになって、1年半が過ぎようとしています。午前中の個人OTという時間は、利用者の方々が安心して通えるような“場”を作ることを日々心がけています。ここに来ると何かいいことが起こるかもしれないという“場”を作ること、そして色々な活動が自由に選べて手軽に取り組めるような雰囲気であるようにと心がけています。そういった“場”の中で聴覚障害の方とは個別の関わりをしたり、グループ活動を一緒にしたことがあります。普段から治療として活動を用いているので、作品作りを通しての非言語的な関わりで意思疎通を図ったりしていますが、聴覚障害の方と関わるといかに自分が言語に頼ったコミュニケーションに依存しているのかを痛感させられます。

学生時代、障害体験という授業があって、一日車椅子の生活をしたり、目隠しをして一日過ごしたりと障害の疑似体験をしたことがありました。今回、執筆するにあたって、ふと聴覚障害を疑似体験した友人の話を思い出します。「急に何も聞こえない世界を体験すると不安と恐怖がおそってくる。普段なら気にもかけない他人の笑顔や素振りが何か自分に関係しているのではないかと猜疑心にかかる」というものでした。何も情報が分からないことほど、人間にとって怖いものはありません。耳からの情報は、視覚や臭覚に比べるとほとんど意識されずに選択的に聞きたいものは拾うし、聞き流すものは流すということを無意識にしているので、そこからの情報がなくなるとかえって意識させられて不安が喚起するというものでした。

自分が今まで作っている“場”は聴覚障害の方にとって安心できる場なのかな？とふと思います。少しでも安心して通えるような“場”を作らなければいけないと、作業療法士として改めて考えさせられました。



## 最近のトピックス

『精神看護』（医学書院）Vol.7 No.5 Sep.2004【焦点】「耳の聞こえない精神障害者のケアから見えてくるもの」の特集において、医師 藤田 看護師 寺井 精神保健福祉士 西川 がそれぞれの立場で執筆しました。

見学者 10月21日（木）世田谷福祉専門学校 手話通訳学科 学生

10月23日に新潟中越地震が発生し、10万人の方が避難を余儀なくされています。震災時、新幹線に乗車中だった方が“何が起きているのかわからず、この世の果てかと思った。情報が入ってきたのは発生から7時間後で、その間恐怖と不安でいっぱいでした”とありました。情報が入ってこないほど不安なことはありません。この状況下で聴覚障害の方に様々な情報がしっかり伝わるような体制ができていないことを祈ります。（は）

## 『特別なものではない』

事務 原田 真美

四月に入社し、手話の勉強を始めて半年が過ぎました。院内の手話サークルに週に一度参加していますが、一週間過ぎると学んだ半分は忘れてしまい、何度も繰り返しながら頑張っているんです。

以前一時期、テレビドラマの影響で手話を学び始める人が増えたといわれたことがありましたが、私もその中の一人でした。手話の本を買い、自分で少し勉強をしましたが、「学んだことを実践する機会もない」という自分の言い訳で、いつしか“手話”という存在さえも自分の生活の中から消えていきました。私は手話を一つの“ブーム”として捉えていたのです。

しかし、この病院に勤めるようになり“手話”への捉え方も変わってきました。本院での“手話”という存在は決して特別なものではなく、人と人がコミュニケーションをする上での1つの手段として当たり前に使われています。私も聴覚障害を持つ患者さんと接することが多々あり、覚えたての手話を使おうとするのですが、まだまだ自信もなく緊張もします。筆談と手話で一生懸命伝えようとすると、患者さんの中には私が筆談した文章を手話にして教えてくださる方もいらっしゃいます。コミュニケーションを取ることの楽しさ、素晴らしさを教えられます。

聴覚障害というハードルを越えた人と人とのコミュニケーションの大切さを胸に少しずつですが、手話だけで会話ができるように、これからも手話を学んで行きたいです。



### 【編集後記】

すっかり肌寒くなり、秋らしいお天気が続いています。

しかし、季節の変わり目は風をひきやすいので、みなさん気をつけましょう！！ (原)

## 『世界にひとつだけの花』

看護師 中井 拡美

ナンバーワンにならなくてもいい・・・

長女が保育園の運動会で集団演技をした曲です。曲にあわせて和太鼓とダンスを取り入れた素晴らしい発表でした。この発表のお返しに、保育園最後の発表会で保護者より“世界にひとつだけの花”を手話でコーラスすることになりました。

“手話って何？” “むずかしそう・・・” “どうするの？” という素人ばかり・・・それぞれの自宅での練習中に、親よりも先に子供が覚えて“お母さん違うで～”と指摘されながらも練習を続けました。

表情豊かにリズムカルに表現する子供！悪戦苦闘する親・・・特訓の結果、晴れ舞台(?)では大成功を収めることができました。

子供たちに表現方法の一つとして手話があることを知って欲しかったための取り組みでしたが、大人も今回のちょっとしたキッカケで手話に出会い、この豊かな表現方法をする機会になりました。身近にある小さなキッカケが大きな興味となって一人でも多くの方に知っていただけたらと思いました。

さて、私は手話を通じてどんな花を咲かせることができるのでしょうか・・・？

## ～わんぽいんと手話～



『勉強』

自分に向けた手のひらを肩幅に広げ、上下させる



『遊ぶ』

人差し指を顔の両側におき前後に軽く振る